

日本語二字漢字語の理解におけるベトナム語漢語の音韻類似性の影響

Hoang Thi Lan Phuong 日本語教育学分野・専門 博士前期課程2年

研究目的と研究方法 ベトナム語と日本語は、漢語を共有しており、書字が異なっているものの、意味が同じ同義語が多い。語彙処理においては、母語の第1言語(L1)と学習対象の第2言語(L2)の両方の語彙項目が言語非選択的に活性化され、L1とL2の両言語の語彙使用頻度と音韻類似性が、L2の語彙処理に影響するかどうかを語彙性課題や翻訳課題の実験で検討した。

音韻類似性のデータベース 本研究は初めて日越両言語の音韻類似性を数値化し、データベースを作成した。音韻類似性は音韻的距離と音素類似性で計算した。語レベルの音韻的距離の平均は6.06(標準偏差、 $SD=2.52$)、音素類似性の平均は0.5($SD=0.2$)で、両指標の相関係数は0.92であった。

被験者 ホーチミン市師範大学外国語学部日本語分野のベトナム人日本語学習者38名を対象とした。平均年齢は23歳3ヶ月($SD=2$ 歳2ヶ月)、日本語学習歴史の平均は5年と0ヶ月($SD=1$ 年6ヶ月)であった。被験者の日本語の語彙の習熟度を測定するため、非漢字圏日本語学習者のためのテスト(大和・玉岡・茅本2016)を実施し、上位群(24名)と下位群(14名)を分けた。

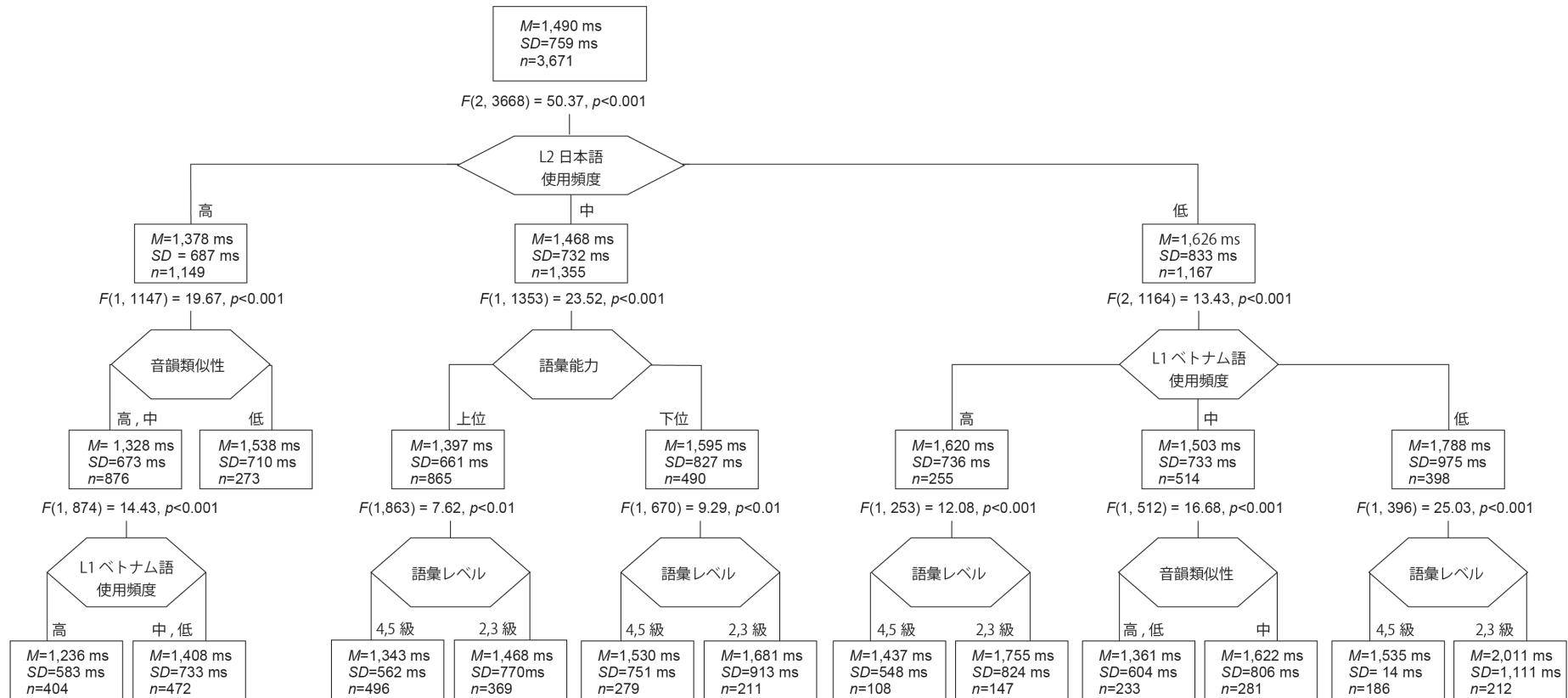
実験1 語彙性判断課題 決定木(重回帰)分析で解析した実験1の結果、正答率の平均は93.72%($SD=24.26\%$)、反応時間の平均は1,072ms($SD=614$ ms)であった。語彙使用頻度に関しては、L2日本語の使用頻度が語彙処理に強く影響した [$F(2, 5337)=51.86, p<.001$]。L2日本語の使用頻度が中程度の場合のみL1ベトナム語の使用頻度の効果が観察された [$F(2, 3186)=11.68, p<.001$]。学習者の語彙能力に関しては [$F(1, 5338)=5.50, p<.01$]、上位群の方が下位群よりも反応時間が短かった。さらに、上位群(反応時間の平均、 $M=1,057$ ms, $SD=599$ ms)と下位群($M=1,097$ ms, $SD=638$ ms)とも、L2日本語の使用頻度が活性化した。

実験2 翻訳課題 実験2の結果、正答率の平均は91.26%($SD=28.25\%$)、反応時間の平均は1,490ms($SD=759$ ms)であった。L2日本語の使用頻度は最も強い予測変数となり、日越両言語間の音韻類似性の効果も有意であった。図で示したように、日本語の漢字二字語をベトナム語に翻訳する際、L2日本語の語彙使用頻度が高い場合の日越両言語の音韻類似性がある程度高いL1ベトナム語の使用頻度が活性化され、それらの語彙の処理速度は非常に速かった。

考察 ベトナム語母語話者の日本語学習者により、L2日本語の漢字二字語を処理する際、日越両言語の音韻類似性と使用頻度の効果を検討した。L2日本語の漢字語を処理するため、やはりL2日本語の使用頻度が強い予測変数となるが、L1ベトナム語の使用頻度と日越両言語の音韻類似性の効果も見られた。これにより、ベトナム人日本語学習者が漢字二字語を処理する際、母語の知識を活性化して、語彙性判断課題と翻訳課題を遂行する反応時間に影響した。本研究では、日越両言語で言語非選択的に語彙を処理することが確認できた。さらに、非漢字圏のベトナム人日本語学習者のため、漢字語を習得する教授法及びカリキュラムの基礎的な研究資料として、日本語教育に貢献すると考えられる。

参考文献

- 大和・玉岡・茅本 (2016) 『ことばの科学』 **30**, 39-58.
 Almeida, J., Knobel, M., Finkbeiner, M., & Caramazza, A., (2007). *Psychonomic Bulletin & Review*, **14** (6), 1177-82.
 Dijkstra, A. T., & van Heuven, W. J. B., (2002). *Bilingualism: Language and cognition*, **5** (3), 175-197.



ベトナム人日本語学習者による漢字二字語の語彙認知処理に影響する各要因の関係